

4 学年の実践

読みなおす活動を通して、より伝わりやすい文章を書く

自分が体験した出来事について、作文することは思いのままに楽しんで取り組むことができる。ただ、読み手の立場でその出来事をわかりやすく伝えようとする経験が少ない。今までの子供たちの作文を見ても主述が曖昧なために、伝わりにくい表現になってしまうことが多い。そこで、本単元では次のことを大切にしながら報告文が書けるよう指導した。

身に付けさせたい力	手立て	手立ての効果
「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を必要に応じて落とさず書く	モデル文②の活用 思い出しマップの作成	モデル文をもとに、大切な情報を落とさず書くことの大切さに気づき、自分が伝えたい情報を思い出しマップを使って想起する。
だれから聞いた話か、だれが言っていたことかを明確にする	モデル文①の活用 ニュースに書く内容の見通しをもたせる場の設定	モデル文から主述の大切さを理解し、思い出しマップから伝えたい出来事に明確に伝えるための情報を選択する。
友達から文を読んでもらい、よりよくなるように書きなおす	モデル文②の活用 友達と作文を読み合う場の設定 自分で読み返す場の設定	他者に伝わりやすく書けているかを読んでもらうことにより、出来事をわかりやすく伝えられているかを確認されているかに気付く。

モデル文は2種類あり、単元を通して3つの場面で活用した。

モデル文①は、導入時に「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の大切さに気づき、学習の目標をもたせ、モデル文②は、作文を読み返す視点や方法を理解させるために活用した。

モデル文②は、3組で教科書のモデル文をもとにしたものを使い、その反省をもとに1・2組では子供たちの作文と同じ「リトルファイヤースクール」を題材にしたものを使った。

このような手立てのもと、自分の作文を見直し、推敲しながらおうちの人に向けたリトルファイヤースクールの作文を書き上げた。

1 単元名 「わたしが選んだ今月のニュース」 【報告文】 6月
～リトルファイヤースクールをおうちの人に伝えよう～

2 単元の目標

- ニュースを書くことに興味をもち、出来事を文章に書いて伝えようとしている。
- 日常生活を振り返り、友達に伝えたい出来事を探して、ニュースの題材を決めている。
- ◎ 出来事を伝えるために、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を落とさずに、分かりやすく文章を書いている。

3 提案

<目指す子供の姿>

- 「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」など、分かりやすく伝えるために大事なことを落とさずに、ニュースを書こうとする。(2組)
- 自分がしたことと他人がしたことや聞いて分かったことを伝わりやすく書けているか、確かめている。(3組)

- 「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」が書かれているかを読み合う活動を通して、ニュースを分かりやすく書いているか確かめている。(1組)

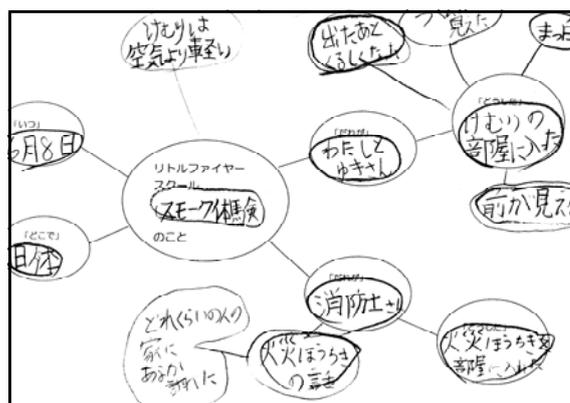
<そのための手立て>

- 思い出しマップの作成 (2組)
- ニュースに書く内容の見通しを持たせる場の設定 (2組)
- モデル文の活用 (3・1組)
- 友達と作文を読み合う場の設定 (3・1組)
- 自分で読み返す場の設定 (3・1組)

4 学習の様子と考察

(1) 思い出しマップの作成

まず、リトルファイヤースクールで、どんな体験をしたのかを確認した。見たこと・感じたことだけでなく、聞いたことも思い出したところで、「思い出しマップ」の作り方の説明をし、一人でマップを作る活動に移った。マップには、一番伝えたいことを中心に書き、思い出したことを次々につないで書いていく。「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を書く場所をあらかじめ印刷しておいた。「だれが」「どうした」の欄を2つずつ作ったので、子供たちは、自分がしたことと他の人がしたことを区別して書いていた。



(2) ニュースに書く内容の見通しを持たせる場の設定

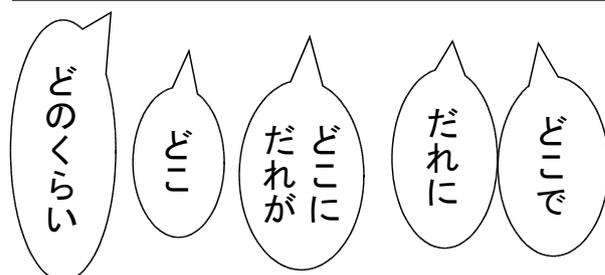
実際にニュースを書き始める前に、思い出しマップに書いたことの中から特に書きたいことをいくつか絞らせ、赤鉛筆でマークさせた。「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」など大事なことが入るようにということ、「だれが」「どうした」では、自分と自分以外の人が含まれるようにということを押さえてマークさせた。個数は特に限定しなかったが、書く分量をワークシートのニュースを書くスペースに納めることを条件にして書きたい内容を選択させた。この活動により、書く内容を厳選することができ、どのように書くのか大まかな見通しを持たせることができた。

(3) モデル文の活用

モデル文を提示し、はじめはこの文章に直すところはないと子供たちは感じていた。そこで全員で「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」に着目し、モデル文を一文一文読んだ。これによって足りない部分を明らかにしたり、もっとこうしたらよいというアドバイスも出たりした。子供たちの体験と同じ内容のモデル文を利用したことで場面や言葉の理解がスムーズになり、書き方に集中して読ませ、考えることができた。

子供たちから出た「もっとよい文章にするためのアドバイス」は右の通りである。

六月八日に、四年生がリトルファイヤースクールのけむり体験をしました。話を聞いてみると、けむりは上の方へ行くので、下の方が安全だそうです。入ったときは、前が真っ白で何も見えませんでした。出てきたときは、せきが出てきました。けむりの中を歩くときは下の方が安全だとわかりました。



(4) 友達と作文を読み合う場の設定

はじめて見る友達の文章なので興味をもって読むことができた。はじめは作業のやり方がわからずに戸惑う子も見られたが、教師からの働きかけやモデル文を参考にして進んでいた。また、一つの文章を順番に二人が読むので、後の子は前の子の見方を参考にすることができた。

「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を確認していく作業は、ほぼ全員ができていた。一方で時間が短い中、初めての文章を読み、アドバイスをするのは難しいようであった。

(5) 自分で読み返す場の設定

友達からのアドバイスを参考にして、もう一度自分の表現や言葉遣いを考え直していた。全てのアドバイスをそのまま受け入れるのではなく、アドバイスから取捨選択して赤でチェックをつけることができていた。具体的に書き込む言葉をメモする姿も見られた。一方でアドバイスが書かれていない子も見られた。彼らにとっては再考する材料が与えられず、何を考えたら良いかわからない場になってしまった。教師からは自分の文章をもう一度見直し、自分で直したい点があるか、またどのように直すかを考えさせた。

5 成果と課題

・「書き方」を身に付けさせるために有効な手立ての在り方

モデル文の活用は、作文指導で大変有効であった。書き方を考えながら理解できる点と実際に子供たちが作文を書く際に、手本としながらも一度見直すことができる点にある。モデル文があることで学習したことをもう一度見直しながら、学習のポイントを振り返り、そのことに気をつけながら作文している姿をたくさん見ることができた。4年生にとっては、教科書のモデル文を踏まえながら、子供たちの題材により近いものを提示したほうがよいことも3組と1組の実践からわかった。

友達と読み合う活動は、他者の作文を読むことで自分の学習を深める効果があったと言える。他者の作文を読んだ後、自分の作文をアドバイスしてもらった以外の点も直していた。4年生にとっては初めての推敲という作業を友達から自分へと取り組ませた効果と言える。ただ、子供の書く力や友達の作文を読むという意欲面に個人差があったことが課題として残った。

・「書きたい内容」や「書く目的」を明確にもたせることができる題材の工夫について

本単元では、「リトルファイヤースクール体験」を内容として統一した。統一した理由は2つある。1つ目は、単元導入時前に全員が共通で体験したことである。共通させたことで、一斉指導の際、イメージを共有させることができた。「～～の活動では、～～なことがあったね。」など思い出しマップを使って想起する際や友達に読んでもらいアドバイスする際にも情報を共有しながら、見通しをもたせることができたためである。また、教師の支援も具体的になる。2つ目は、他者との関わり合ったことである。そのことで、自分で体験したり、感じたことと他者から得た情報が作文の中に入れやすくなり、本単元の目標に迫りやすくなる。

書く目的は「リトルファイヤースクールニュースをおうちの人に伝えよう」と設定した。様子を知らないおうちの人に伝えることで、報告文をより正確に伝えようとすることを期待した。また、おうちの人からも評価をしてもらうことができ、相手意識を強くすることができた。しかし、具体性に欠け、焦点がずれるところがあった。「安全に身を守る方法をつたえよう」や「消火のために工夫されている点を伝えよう」などさら焦点を絞った課題提示が必要であった。

第4学年1組 国語科学習指導案

6月 20日(月) 3校時

大越 崇宏

【私の提案】

① 主張したいこと

〈本時で目指す「書く力を高める」子どもの姿〉

- 「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」が書かれているかを読み合う活動を通して、ニュースを分かりやすく書けているか確かめることができる。

〈そのための手立て〉

- モデル文の活用。
- 友達と作文を読み合う場の設定。
- 自分で読み返す場の設定。

② 授業で最も見てほしいところ

- 友達と読み合う活動によって、大事な情報に着目することができたか。
- 自分で読み返す活動を通して、自分の文章が分かりやすく書けているか確かめることができたか。

③ 協議会で検討してほしいところ

- モデル文の活用がニュースを読む視点を持たせることに有効であったか。
- 友達と読み合う活動が分かりやすく書けているか確かめるために有効であったか。
- 自分で読み返すことが改善点を考えることに有効であったか。

1、単元名

わたしが選んだ今月のニュース（出来事を分かりやすく報告する文章を書く。）
～リトルファイヤースクールニュースをおうちの人に伝えよう～

2、単元と児童

(1) 単元について

本教材では自分が体験した出来事について、報告する目的で文章を書く言語活動を行う。その活動を通して、出来事を分かりやすく伝えるために、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」という大事な情報を落とさずに書く力をつけていく。「だれが」「どうした」については自分と他の人を明確に区別することも指導していく。さらに、読み手の立場に立ち、読み手の興味をひきつける題を考える力をつけることもねらっていく。

なお、単元名に「ニュース」という言葉が使われており、ニュースというと「普段とは何か違う特別なこと」というとらえ方もある。しかし、ここでは、人を引きつけるための題材選定や文章の書きぶりに重点をおくのではなく、分かりやすく報告するために「大事な情報を落とさずに書く」

ということに重点をおいて指導する。

これまでも児童は、生活の中の出来事を文章に書くという経験している。しかし、児童自身が体験した出来事について、体験を共有していない人にも分かるように情報を選んで書くことは難しい。ここでは、出来事を正確に伝えるために、大事な情報として、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」が分かるように書く力を身に付けさせたい。

また、題を工夫して読み手の興味をひきつけることは、その他の文章を書く場合にも必要となる能力である。書く内容そのものを短い言葉にまとめるのではなく、読み手を意識して、題を考えるように指導したい。

さらに、ただ文章を書いたという満足感で終わるのではなく、「どうすれば、うまく伝えることができるか」といった相手意識を持って文章を書くことを大切にしたい。

(2) 児童の実態

4月に「心の動きを文章に書こう」という単元を学習している。この学習では、気持ちを表す言葉の工夫や出来事の中で大きく心が動いたところを詳しく書くことを学んできた。この単元を授業で行った結果、三段落構成を意識しながら、より順序よく気持ちを表したり心が動いた理由を書いたりすることができた。

<作文アンケートの結果>

パターン1 (作文がすき・書きたいことを見つけられる)	パターン2 (作文がきらい・書きたいことを見つけられない)	パターン3 (作文がすき・書きたいことを見つけられない)	パターン4 (作文がきらい・書きたいことを見つけられる)
13人(39.4%)	10人(30.3%)	6人(18.2%)	2人(6%)

この結果から、作文がすきで書きたいことを見つけられる子と作文がきらいで書きたいことを見つけられない子の大きく2つの傾向に分けられる。作文はすきだが、上手く題材を見つけられない子が6人(18.2%)いることも分かった。

これまでに100マス作文を何回か行っている。その結果、子どもが作文を楽しんで書くようになってきている。また、テーマを指定して「生活の中のニュース」を書く活動を行っている。これによって、ニュースとなる題材を見つける力が身に付いてきた。

子どもたちは今まで作文や日記など様々な文章を書いてきているが、書いたことに満足し、正しく書けているかや分かりやすく書けているか振り返っている姿があまり見られない。

3、単元の計画

(1) 目標

【関心・意欲・態度】

- ・ニュースを書くことに興味をもち、出来事を文章に書いて伝えようとしている。

【書くこと】

- ・日常生活を振り返り、友達に伝えたい出来事を探して、ニュースの題材を決めている。
- ・出来事を伝えるために、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を落とさずに、分かりやすく文章を書いている。

(2) 指導計画 (全4時間 本時 3/4)

次	時間	ねらい	主な学習活動
1	1	出来事を伝えるために大事な情報を知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文章AとBを比較し、伝わりやすく書くために大事な情報を知る。
2	2	思い出しマップを作成し、それをもとにニュースを書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 思い出しマップの作成。 ニュースを書き、五七五で要約を書く。
	3 本時	「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」が書かれているかを読み合う活動を通して、その文章を分かりやすく書けているか確かめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 書いたニュースを読み合い、質問を書く。 自分のニュースの改善点を考える。 改善点を踏まえ、ニュースの清書を書く。
3	4	題名を考えて友達で読み合い、感想を伝え合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ニュースの題名を考える。 読み合い、互いのよさを認め合う。

(3) 指導の構想

①比較

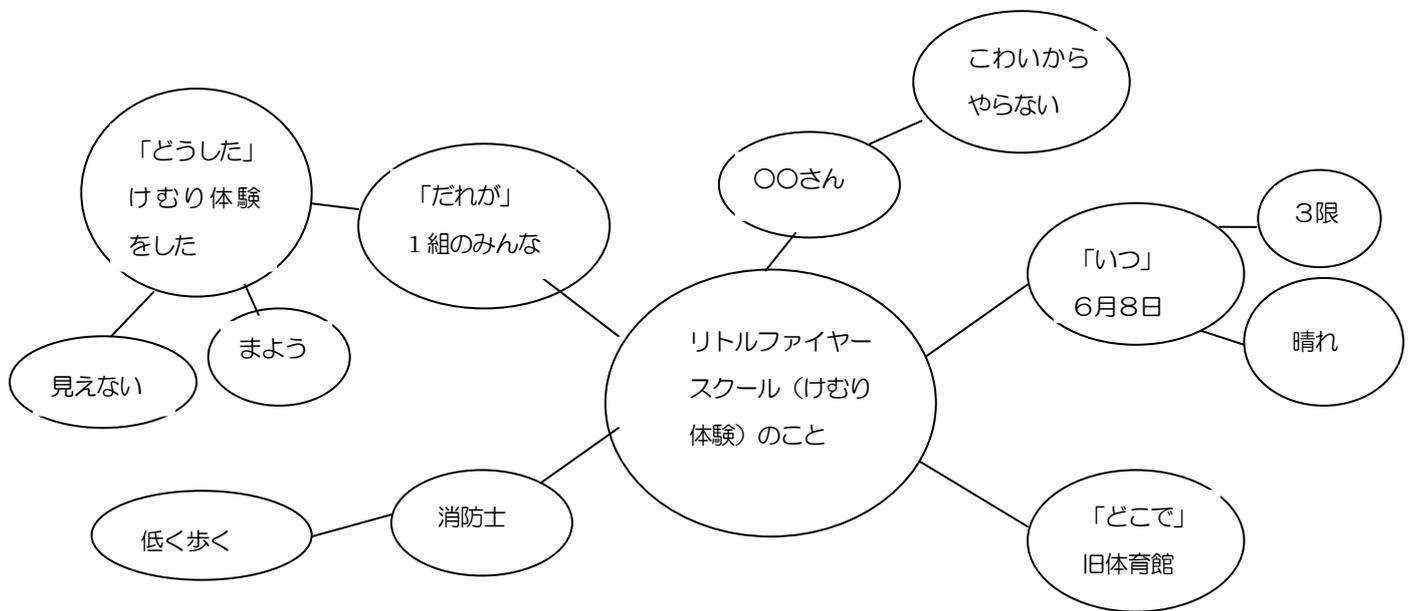
教科書にある2つの文章(A・B)を比べて、どちらが分かりやすいかを子どもたちに判断させる。Aには「どうした」に関わることしか書かれていない。それに対し、Bは「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」があることに気づかせたい。そのためにAとBを比べ、AにないがBに含まれている情報を探す活動を行う。この活動を通して、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」という情報があると相手に伝わりやすいことを感じさせたい。さらに、Bの文章では自分が体験したこと(～でした。～していました。)と他の人から聞いた情報(～だそうです。～ということでした。)を区別していることに気づかせたい。

②共通の題材設定

本単元ではニュースというトピック性ではなく、相手に伝わるように大事なことを落とさずに報告することに重点を置く。そこで、題材は「リトルファイヤースクール」、読み手は保護者とする。これによって、題材を見つけられない児童が題材設定への抵抗感を減らすことができ、学習内容に意識を傾けることを期待する。また、友達で読み合ったときに、互いに同じ体験や共通の意識をもつことができるため、改善点を見つけやすいであろうと考えた。

③思い出しマップの活用

第2時では思い出しマップを作成させる。キーワードをつないで、思い出しマップをつくることで出来事や場面のイメージをふくらませ、ニュースを書くことを容易にしたい。また、ニュースを書けない子を教師が支援する際にも参考にし、質問することができる。また、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」も思い出しマップの中に項目を設けておき、落とさないように配慮したい。ニュースを書き終えたら、五七五を書かせることでニュースを要約し、伝えたいことを明確にさせる。第3時(本時)で友達のニュースを読む前に、五七五があることで、書き手が伝えたいことを理解し、内容に応じたアドバイスを書けると考える。



④読み合いの活動

友達同士で読み合い、チェックし合う活動を行う。今まで、自分が書いたものを見直すことが少なかった子どもたちにとって、友達からアドバイスをもらうことで、自ら書いた文章を見直す必要性を感じさせたい。さらに、他の人の文章を読むことでいろいろな表現方法があることを知り、次に文章を書くときの参考にできると考えられる。読み合いの活動を充実するために、ワークシートに友達からの意見が書き込める欄を設ける。

⑤題の付け方

これまでも児童が文章を書く際に、題を付けて書くことはあった。しかし、内容そのものの題であったり、教師の提示した題であったりすることが多い。ここでは、ニュースという形式になぞり、見出しとして読み手の興味をひきつける題を考えさせたい。四年生の段階では、表現方法を詳しく説明するのではなく、いくつかの工夫された題を例示して、そこから児童の自由な発想を導きだしたい。

また、100マス作文でも五七五でまとめる活動を行っており、作文の内容について自分なりに要約する力をつけさせたい。要約する力は文章に題名を考えることにもつながると思う。

4、本時の指導

(1) 本時のねらい

「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」が書かれているかを読み合う活動を通して、ニュースを分かりやすく書けているか確かめることができる。

(2) 本時の構想

○ モデル文の活用

本時ではモデル文を提示し、改善点をみんなで考える活動を行う。「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」をチェックして、ニュースを読み返す視点を意識付け、読み合いの方法を把握させる。

○ 友達とニュースを読み合う活動の設定

子どもたちは今までじっくりと読み返しをする経験をしてきていないので、自分で読み返し、問題点や改善点を見つける力が弱い。読み返す活動を行っても、作文を書き上げたことで満足し、

注意深く読み返すことができないので、誤字・脱字など単純な誤りにも気づけないこともある。

特に自分が体験したことを書いた作文では、すでに自分は内容が分かっているために、読み返しの活動を行っても改善点を見つけられない子が多く、いわば上すべりな読み返し方をしていると考えられる。

そこで、本時では友達の作文を読む活動を設定する。友達の作文には興味があり、意欲的に読むことができるであろう。また、同じ体験をしているので、様子の分かりづらい点などを見つけやすいと考える。

この活動では、『「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」といった、大事な情報が書けているか。』と『他の人から聞いた情報を区別してニュースを書いているか。』という2つの視点で読み合い、読み返す力を付けると共に、自分のニュースに生かせるようにしたい。

○ 自分のニュースの改善点を考える場の設定

読み合う活動の後、友達に書いてもらったメモを見て、自分の作文の改善点を考える活動を設定する。この活動は、友達からのアドバイスを改善点の視点として自分が書いた作文を改めて読み返し、自ら改善点を考える。

(3) 展開

学習活動（分）	教師の働きかけ（T） 予想される児童の反応（C）	○指導上の留意点 ☆手立て ◎評価
1 モデル文をもとに、チェックの方法を知る。 (15分)	<p>T 前の授業では大事な情報を落とさずに書けたかな。</p> <p>C うーん。</p> <p>C 自信ない。</p> <p>C わからない。</p> <p>T どうすれば、たしかめられるかな。</p> <p>C 見直しをする。</p> <p>C みんなで読めばいい。</p> <p>T よく伝わるように、分かりやすく書けたかたしかめよう。</p> <p>T 友達と読み合いたいと思います。その前にどうやって読めばいいか、この文で確かめよう。</p> <p>C けむり体験のことだね。</p> <p>C 何か足りないと思う。</p> <p>C 「どこ」が抜けている。</p> <p>C 「どこ」を最初に入れた方がいいと思う。</p> <p>C だれに聞いたのかわからない。</p>	<p>○ たしかめる必要性を感じさせる。</p> <p>○ たしかめる方法を聞く。</p> <p>○ モデル文を提示し、チェックの仕方をみんなで考える。</p> <p>☆子どもたちに答えさせ、①「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を青で囲む。②わかりやすく、伝えるためのアドバイスを書こう。このチェックの方法を指導する。</p> <p>○ 「他の人に聞いたこと」が抜けていることに気づかない場合はAとBの文章を</p>

<p>2読み合い、質問や 知りたいことを書 く（20分）</p>	<p>T 今から班の形になり、友達の作文を読み ましょう。そして、今やったように、チ ェックしたり、もっと知りたいことをワ ークシートに書いたりしましょう。</p> <p>C 大事なことの「だれ」がない。</p> <p>C 文の最後が「〇〇だそうです。」と聞い た形になっている。</p> <p>C 他にいた人はだれだろう。</p> <p>C どうやって歩いたのかな。</p>	<p>提示し、何が大事であったか復習する。</p> <p>☆ モデル文で学習したことをもとにニュ ースを読み合う。</p> <p>○ 1人7分とし、2人の作文を読む。（2 人はこちらから指定し、学力が低い子の みにならないように配慮する。）</p> <p>○ 机間指導をし、①②を確実にチェックで きるように声をかけていく。</p> <p>○ 書いた人に聞かないようにする。お家の 人になったつもりで読み、アドバイスを させる。</p> <p>◎ 友達の書いた文章を読み、知りたいこ と・質問を書いているか。</p>
<p>3友達が書いたワー ークシートを読み、 改善点を考える。 （10分）</p>	<p>T 友達が書いてくれた、ワークシートを読 んで、自分のニュースの改善点を考えよ う。</p> <p>C 「どこ」を入れ忘れていたんだな。</p> <p>C このアドバイスは本当に必要な。</p> <p>C 確かに、〇〇があった方がわかりやすい と思う。</p> <p>C ここは、上手く伝わりにくいんだな。</p> <p>C アドバイスにはないけど、直したい部分 が出てきた。</p>	<p>☆ ワークシートに友達が書いてくれたこ とを読み、改善点を考える。</p> <p>○ 友達の意見で取り入れることには丸で 囲む。空いているスペースに改善するこ となどをメモしてもよい。</p> <p>○ 書いてもらった内容について、質問をし てもよい。</p> <p>○ 終わった子にはニュースで改善する文 を考えさせる。</p> <p>◎ 友達の意見から、自分のニュースを見直 そうとしているか。</p>

(4) 評価

- 友達の書いた文章を読み、知りたいこと・質問を書いているか。
- 友達の意見から、自分のニュースを見直そうとしているか。

リトルファイヤースクールニュースを書こう
～お家の人に伝えよう～

名前

六月八日に、四年生がリトルフ
アイアースクールのけむり体験
をしました。

話を聞いてみると、けむりは
上の方にいくので、下の方が安
全だそうです。入ったときは、前
が真っ白で何も見えませんでした。
出てきたときはせきが出てき
ました。

けむりの中を歩くときは下の
の方が安全だとわかりました。

真っ白な

けむりの中な

下歩け

5 学年の実践

モデル文から見つけた技を使って意見文を書く

本単元「立場を明確にして書こう」では、賛成か反対かの立場を明確にし、説得力のある意見文を書く力を付けることをねらう。

当校の研究で目指す子どもの姿【文種に応じた「書き方」ができる子ども】を具現するために、意見文の書き方を以下のような構えで身に付けさせたいと考えた。

- ・説得力のある意見文を書くためのポイントを“意見文の技”として5つ設定する。
- ・モデル文を活用して技を見付けさせる。
- ・技の効果を実感させ、活用への意欲をもたせる。
- ・5つの技は段階的に提示し、一つ一つの技の定着を図る。

また、目指す子どもの姿【「書きたい内容」や「書く目的」をもって書く子ども】に迫るために、意見文の課題を工夫した。課題を「よりよいクラスにするための取り組みの継続について考えよう」とし、「よりよいクラスにするための取り組みの継続の賛否について」意見文を書いた。子どもたちが自分の課題として真剣に考え、相手に自分の考えを明確に伝えようという思いをもって書くことを期待した。

設定した課題には以下のようなよさがある。

- ・経験や体感をもとに、立場を明確にしたり理由となる事実を書いたりすることができる。
- ・共通体験や学級への思いをもとに交流ができる。
- ・ここで書いた意見文がその後の学校生活に生かされる。

なお、本単元は、5年生（上）の教科書の以下の2つの単元で学習したことがもとなる。

単元	ねらい	学習したこと
ゲストティーチャーをすいせんしよう（話す・聞く）	意見を明確にして人物を推薦するための話をする	推薦文を書く時に、「複数の理由を挙げる」「理由にまつわるエピソードを話す（事例）」を書く。
意見とその理由を聞き取る（話す・聞く）	話し手の意図をとらえ、ふさわしい理由を挙げて意見を述べているか考えながら聞く	意見の妥当性を「話題からそれていないか」「偏った考えになっていないか」「内容に食い違いはないか」を観点に聞く

このようにして、子どもたちは書く目的を意識した上で技を使った推敲を行い、友達との交流を通して意見文を仕上げていった。

1 単元名 「立場を明確にして書こう」 【意見文】 7月

2 単元の目標

自分の立場を明確にし、相手に自分の考えが明確に伝わるように工夫しながら、よりよいクラスにするための意見文を書くことができる。

3 提案

〈目指す子どもの姿〉

- 【意見文の技…意見と理由を区別する・理由を表す言葉を使う・順序や追加を表す言葉を使う】ことのよさを理解し、選んだ理由を検討することを通して文章の構成を考えることができる。（1組）
- 【意見文の技…具体例を挙げる・比べて説明する】ことのよさを実感し、その技を使って自分の意見文を推敲することができる。（3組）

- 自分の考えが分かりやすく伝わるような意見文を書くための【意見文の技…具体例を挙げる】こと
のよさを実感し、その技を使って自分の意見文を推敲することができる。(2組)
- 自分の考えが分かりやすく伝わるような意見文を書くための【意見文の技…比べて説明する】こと
のよさを実感し、その技を使って自分の意見文を推敲することができる。(4組)

〈そのための手立て〉

○モデル文の活用

よい意見文を書くためのポイントを「意見文の技」として5つ設定した。技を使ったモデル文を段階的に提示し、技を加える前(前時)のモデル文と比較しながら技を見付けさせ、その効果を実感させていく。技を使うことへの意欲をもたせた上で推敲をしていくことで、確実な定着を図りたいと考えた。

意見文の技①	意見と理由を区別する	「意見→理由→意見」の三段構成
意見文の技②	理由を表す言葉を使う	「なぜかというと～だからです。」 「理由は3つあります。」
意見文の技③	順序や追加を表す言葉を使う	「まず～。次に～。それから～。」 「それに～。」
意見文の技④	具体例を挙げる	「例えば～。」 「例を挙げると～。」 「具体的に言うと～。」
意見文の技⑤	比べて説明する	「～に対して～。」 「～に比べて～。」 「〇〇は、～。一方、△△は、～。」

○交流する場の設定

意見文に取り入れる理由や具体例を考える活動や推敲した文章を読む活動では、交流の場を設定した。自分で考えたことを友達に伝えたり一緒に考えアドバイスをし合ったりすることを通して、考えを共有しながらよりよい意見文に仕上げていく。また、互いの文章を交換して読み合うことを通して、友達の表現のよさを見付けたり技の効果を実感させたりすることをねらった。

4 学習の様子と考察

モデル文	授業の様子
<p>このように運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p> <p>このように運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p>	<p>(2時) モデル文[A]と[B]の比較で技①②③を見付けた (1組)</p> <p>2つのモデル文を提示する際、はじめは文章を見せずに聞かせた。子どもたちはBの方が分かりやすいと感じ、その理由を文章から見付けた。「Aは最初に意見を言っていないので最後まで意見がわかりにくい」こと、「Bは、理由を表す言葉をつかっている。はじめと終わりに意見を言っている」ことなどに気付いた。モデル文は、一段落一文のシンプルな文章であったことから、子どもたちは、意見文の技を見付けることができた。</p> <p>授業の後半では、自分の意見にふさわしい理由を選ぶ活動を行った。前時に書いた理由を「似ているものを一つにする→新しい理由を加える」順に考えた。その後、同じ立場の友達と選んだ理由について交流し、選んだ理由がよいかどうかでアドバイスをし合った。「これは言えてる。」「私も同意見。」などとコメントし合うことで、自分の考えに自信をもつことができた。</p>
<p>わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p> <p>わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p>	<p>わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p> <p>わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p>



<p>○わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p> <p>なぜかというと、あいさつは、全校の人たちに十分ゆきわたっているからです。具体的に言うと、私が昨日のあいさつ運動で五十人の人にあいさつをしたら、四十七人があいさつを返してくれました。</p> <p>また、あいさつ運動で二十分も時間がとられると、朝の準備が落ちるようになってきます。例えば、太郎さんは先日、「あいさつ運動を終えて教室に戻ると、もう八時五十分を過ぎていて、なんだかあせってしまっ。」と言っていました。それに、他の活動の方が小針小学校をよい学校にできるからです。例えば、五分間の全校朝マラソンです。</p> <p>このような理由から、わたしは「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p>	<p>(4時) モデル文BとDの比較で技④⑤を見つけた (3組)</p> <p>モデル文BとDを比較させると、子どもたちは、「具体的に言う」と「例えば」などの言葉の後に具体例が入っていることに気が付くことができた。具体例に書かれている内容は、「体験談」「実際に起こったこと」「人の名前、時刻、発言した言葉」などであることを確認し、子どもたちがこの技を活用できるように条件付けた。さらに子どもたちは、「一方」や「～に対して」などの言葉で比べて説明していることにも気が付くことができた。ただ、技を見付けることに時間が費やされ、技を使った推敲までを1時間内に納めることはできなかった。</p>
<p>○わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p> <p>なぜかというと、あいさつは、全校の人たちに十分ゆきわたっているからです。具体的に言うと、私が昨日のあいさつ運動で五十人の人にあいさつをしたら、四十七人があいさつを返してくれました。</p> <p>また、あいさつ運動で二十分も時間がとられると、朝の準備が落ちるようになってきます。例えば、太郎さんは先日、「あいさつ運動を終えて教室に戻ると、もう八時五十分を過ぎていて、なんだかあせってしまっ。」と言っていました。それに、他の活動の方が小針小学校をよい学校にできるからです。例えば、五分間の全校朝マラソンです。あいさつ運動が、あいさつのよい学校にするのに対して、マラソンなら集まってきた人があいさつするだけでなく、体力を高めることもできます。</p> <p>このような理由から、わたしは「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p>	<p>(4時) モデル文BとCの比較で技④を見つけた (2組)</p> <p>モデル文BとCを比較させ、技④に気付かせた。3組同様、子どもたちは新しい技にすぐ気が付くことができた。技の効果を実感させるために問うと、子どもたちからは「具体例が入ると詳しくなり、分かりやすくなる」と言う声が返ってきた。</p> <p>技を使った推敲に入る前に、意見文に取り入れる具体例の材料イメージをもたせるために、学級の取り組みの中から話題を広げた。推敲では、具体例の条件の中から自分の意見に合った具体例を見つけ、全員が具体例を入れて書くことができた。</p> <p>書いた文章を交流する活動では、「いいね」「こうした方がいい」と言葉を交わすだけでなく、「具体例の文末が『～からです』なのはおかしい」という指摘をする姿も見られた。</p>
<p>○わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p> <p>なぜかというと、あいさつは、全校の人たちに十分ゆきわたっているからです。具体的に言うと、私が昨日のあいさつ運動で五十人の人にあいさつをしたら、四十七人があいさつを返してくれました。</p> <p>また、あいさつ運動で二十分も時間がとられると、朝の準備が落ちるようになってきます。例えば、太郎さんは先日、「あいさつ運動を終えて教室に戻ると、もう八時五十分を過ぎていて、なんだかあせってしまっ。」と言っていました。それに、他の活動の方が小針小学校をよい学校にできるからです。例えば、五分間の全校朝マラソンです。あいさつ運動が、あいさつのよい学校にするのに対して、マラソンなら集まってきた人があいさつするだけでなく、体力を高めることもできます。</p> <p>このような理由から、わたしは「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に反対です。</p>	<p>(5時) モデル文CとDの比較で技⑤を見つけた (4組)</p> <p>これまでの学習で活動の流れに見通しがもてるようになってきている子どもたちは、モデル文Dを提示すると、すぐに新しい技を見付けようとした。真剣にモデル文を読み、「一方」「～に対して」という言葉を見付けることができた。そして、「取り組みを続けた場合と続けなかった場合を比べていること」「他の取り組みのよいところを書いていること」に気が付くことができた。</p> <p>推敲する場面では、どう書けばよいか分からなかった子どもが友達に相談し、「比べて説明する」技を適切に使った文章を書くことができた。</p>

上記の「反対」の立場のモデル意見文の他に、下のような「賛成」の立場の意見文も提示し、それぞれの技で使われる別の言い方にも気付かせた。

<p>○わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に賛成です。</p> <p>なぜかというと、あいさつは、全校の人たちに十分ゆきわたっているからです。具体的に言うと、私が昨日のあいさつ運動で五十人の人にあいさつをしたら、四十七人があいさつを返してくれました。</p> <p>また、あいさつ運動で二十分も時間がとられると、朝の準備が落ちるようになってきます。例えば、太郎さんは先日、「あいさつ運動を終えて教室に戻ると、もう八時五十分を過ぎていて、なんだかあせってしまっ。」と言っていました。それに、他の活動の方が小針小学校をよい学校にできるからです。例えば、五分間の全校朝マラソンです。あいさつ運動が、あいさつのよい学校にするのに対して、マラソンなら集まってきた人があいさつするだけでなく、体力を高めることもできます。</p> <p>このような理由から、わたしは「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に賛成です。</p>	<p>○わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に賛成です。</p> <p>なぜかというと、あいさつは、全校の人たちに十分ゆきわたっているからです。具体的に言うと、私が昨日のあいさつ運動で五十人の人にあいさつをしたら、四十七人があいさつを返してくれました。</p> <p>また、あいさつ運動で二十分も時間がとられると、朝の準備が落ちるようになってきます。例えば、太郎さんは先日、「あいさつ運動を終えて教室に戻ると、もう八時五十分を過ぎていて、なんだかあせってしまっ。」と言っていました。それに、他の活動の方が小針小学校をよい学校にできるからです。例えば、五分間の全校朝マラソンです。あいさつ運動が、あいさつのよい学校にするのに対して、マラソンなら集まってきた人があいさつするだけでなく、体力を高めることもできます。</p> <p>このような理由から、わたしは「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に賛成です。</p>	<p>○わたしは、「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に賛成です。</p> <p>なぜかというと、あいさつは、全校の人たちに十分ゆきわたっているからです。具体的に言うと、私が昨日のあいさつ運動で五十人の人にあいさつをしたら、四十七人があいさつを返してくれました。</p> <p>また、あいさつ運動で二十分も時間がとられると、朝の準備が落ちるようになってきます。例えば、太郎さんは先日、「あいさつ運動を終えて教室に戻ると、もう八時五十分を過ぎていて、なんだかあせってしまっ。」と言っていました。それに、他の活動の方が小針小学校をよい学校にできるからです。例えば、五分間の全校朝マラソンです。あいさつ運動が、あいさつのよい学校にするのに対して、マラソンなら集まってきた人があいさつするだけでなく、体力を高めることもできます。</p> <p>このような理由から、わたしは「あいさつ運動を続けるべきである。」という意見に賛成です。</p>
--	--	--

【子どもが書いた実際の意見文の変容】

技⑤ ←	技④ ←	技① ② ③
<p>ぼくは、「忘れ物対さくを続けるべきである」という意見に賛成です。</p> <p>なぜかという、忘れ物をする人が減ってきたからです。具体的に言うと、自分の忘れ物が四年生の時よりほぼ半分に減ってきました。</p> <p>また、忘れ物に対する意識がみんな高まってきたからです。</p> <p>それから、忘れ物をするかしないかで、クラスがともり上がっているからです。例えば、スマイルダンスをおどっているときみんなが笑っている、コントみたいにもり上がっていました。一方、もしこの取り組みをやめたしまったら、クラスももり上がらず、よりよいクラスにはならなくなってしまう。</p> <p>このように理由から、ぼくは「忘れ物対さくを続けるべきである」という意見に賛成です。</p>	<p>ぼくは、「忘れ物対さくを続けるべきである」という意見に賛成です。</p> <p>なぜかという、忘れ物をする人が減ってきたからです。具体的に言うと、自分の忘れ物が四年生の時よりほぼ半分に減ってきました。</p> <p>また、忘れ物に対する意識がみんな高まってきたからです。</p> <p>それから、忘れ物をするかしないかで、クラスがともり上がっているからです。例えば、スマイルダンスをおどっているときみんなが笑っている、コントみたいにもり上がっていました。</p> <p>このように理由から、ぼくは「忘れ物対さくを続けるべきである」という意見に賛成です。</p>	<p>ぼくは、「忘れ物対さくを続けるべきである」という意見に賛成です。</p> <p>なぜかという、忘れ物をする人が減ってきたからです。具体的に言うと、自分の忘れ物が四年生の時よりほぼ半分に減ってきました。</p> <p>また、忘れ物に対する意識がみんな高まってきたからです。</p> <p>それから、忘れ物をするかしないかで、クラスがともり上がっているからです。</p> <p>このように理由から、ぼくは「忘れ物対さくを続けるべきである」という意見に賛成です。</p>
<p>ぼくは、「今日の MVP」を続けることに賛成です。理由は三つあります。</p> <p>まず、友達のいいところが分かることができるからです。具体的に言うと、直也さんは、「人をささうのがうまい」とかが分かっています。このような感じでいっぱい友達の良いところが分かって、さらに仲良くなれます。</p> <p>それから、みんなががんばる気持ちになつていいふんいきになります。例えば、ぼくも選ばれたくて、大縄とかいろいろがんばっています。実際に、四月ごろよりもういぶんみんなががんばっているふんいきです。</p> <p>それに、いいところを見つけて、班の人が発表する時、「はつきり言う」につながるからです。</p> <p>「はつきり言う」につながるからです。一方、「きょうの MVP」をやめてしまうと、あまり発言しない人がいます。MVP では、班の順番で発表するので、あまり発言しない人も、どんどん言い声で発言できるようになると思っています。</p> <p>このように三つの理由から、ぼくは、「今日の MVP」に賛成します。</p>	<p>ぼくは、「今日の MVP」を続けることに賛成です。理由は三つあります。</p> <p>まず、友達のいいところが分かることができるからです。具体的に言うと、直也さんは、「人をささうのがうまい」とかが分かっています。このような感じでいっぱい友達の良いところが分かって、さらに仲良くなれます。</p> <p>それから、みんなががんばる気持ちになつていいふんいきになります。例えば、ぼくも選ばれたくて、大縄とかいろいろがんばっています。実際に、四月ごろよりもういぶんみんなががんばっているふんいきです。</p> <p>それに、いいところを見つけて、班の人が発表する時、「はつきり言う」につながるからです。</p> <p>「はつきり言う」につながるからです。</p> <p>このように三つの理由から、ぼくは、「今日の MVP」に賛成します。</p>	<p>ぼくは、「今日の MVP」を続けることに賛成です。理由は三つあります。</p> <p>まず、友達のいいところが分かることができるからです。具体的に言うと、直也さんは、「人をささうのがうまい」とかが分かっています。このような感じでいっぱい友達の良いところが分かって、さらに仲良くなれます。</p> <p>それから、みんなががんばる気持ちになつていいふんいきになります。</p> <p>それに、いいところを見つけて、班の人が発表する時、「はつきり言う」につながるからです。</p> <p>「はつきり言う」につながるからです。</p> <p>このように三つの理由から、ぼくは、「今日の MVP」に賛成します。</p>

5 成果と課題

・「書き方」を身に付けさせるために有効な手立ての在り方

モデル文から意見文の技を見付け、その技を使って自分の意見文を推敲する、これを繰り返しながら意見文の書き方を身に付けていく単元構成は、「意見文の書き方」を身に付けさせるために有効であったと言える。

子どもたちの生活実態に合ったモデル文を作成し、見付けさせたい技が分かりやすい文章を提示したことで、子どもたちは意見文の技がしに意欲的に取り組むことができた。そして、技を使ったモデル文と使っていないモデル文を比較し技の効果を実感させたことで、技を使って書いてみたいという意欲をもつことができた。

また、書く内容や書いた文章について友達と交流する場を設定したことで、自分で考えたことを友達に伝えたり一緒に考えアドバイスをし合ったりして、自分の考えに自信をもって書き進めていくことができた。はじめは、数行しかなかった文章が、技を使って推敲を繰り返すうちに、どんどん豊かに膨らんでいく現実、子どもたちに充実感や満足感を与えることになった。

・「書きたい内容」や「書く目的」を明確にもたせることができる題材の工夫

意見文の題材を「よりよいクラスにするための取り組みの継続について考えよう」とし、学級力を高めるための取り組みの継続の賛否について意見文を書いたことは、子どもたちがより主体的に問題意識をもって考え、意欲を持続しながら推敲をする姿につながった。「自分たちのクラスのこれからについて、自分の意見を書いて考える」ことは、子どもにとって書く意義がある題材となったようである。

しかし、賛否を考える取り組みテーマが抽象的な内容であると具体例や比較事例が見付けにくい。書くために必要な材料を見付けにくい場合は、話題を広げ情報を収集するような活動をする手立ても必要である。「書きたい」気持ちがあっても、書くことが見つからないとその思いの実現にはつながらない。作文の過程における“取材”の場面の重要性を実感した。

第5学年2組 国語科学習指導案

7月6日(水) 2校時
授業者 増村恵美子

【私の提案】

① 主張したいこと

〈本時で目指す「書く力を高める」子どもの姿〉

- 自分の考えが分かりやすく伝わるような意見文を書くための【意見文の技④ 具体例を挙げる】ことよさを実感し、その技を使って自分の意見文を推敲することができる。

〈そのための手立て〉

- モデル文の活用
- 友達と交流する場の設定

② 授業で最も見てほしいところ

- モデル文から、【意見文の技④ 具体例を挙げる】を見付けることができたか。
- 見付けた技【意見文の技④ 具体例を挙げる】を使って、自分の意見文を推敲しようとしているか。
- 考えた具体例や意見文を交流する活動で、友達のよいところを見付けたりアドバイスしたりしているか。

③ 協議会で検討してほしいところ

- モデル文を活用して【意見文の技④ 具体例を挙げる】を見付け、その効果を実感したことは、意見文の「書き方」を学び書く力を高める上で有効であったか。
- 考えた具体例や意見文を交流する活動は、【意見文の技④ 具体例を挙げる】を使って推敲する上で有効であったか。

1 単元名 立場を明確にして書こう

2 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の以下の内容と関連する。

「B書くこと」(2) 内容

- ① 指導事項 (1) イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること
オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること
- ② 言語活動例 (2) イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(※) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること

5年生にもなると、互いのものの見方や考え方の違いを、今まで以上に意識するようになる。このような時期だからこそ、自分の意見を相手に分かりやすく伝えようとする態度、相手の意見を受け止めようとする態度を身に付けることが大切である。それは、高学年の「書くこと」の目標「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる」ことにつながるものである。

そこで、本単元では、賛成か反対かの立場を明確にし、説得力のある意見文を書く力を付けることをねらう。そのために、理由を示すときに具体例を挙げるとよいこと、比べて説明するとよいこと、理由がいくつかあるときは順序を表す言葉を使って整理してまとめるとよいことを、実際に書くことを通して理解させたい。さらに、文章の構成を工夫することで、事実を取り上げているのか自分の意

見を取り上げているのかをきちんと区別して書けるようにしたい。

また、意見文には説得力が要求されるものである。説得力を高めるためには、自分の経験や体感をもとに理由となる事実を書くことが必要であると考え。そこで、本単元での意見文の題材を「よりよいクラスにするための取り組みの継続について考えよう」とし、1回目の学級力アンケートをもとに話し合いこれまで行ってきた取り組みを、さらに続けることに賛成か反対か、立場を明確にして意見文を書く。ここで書いた意見文がその後の話し合いの方向を左右することになるかもしれない。児童が自分たちの課題として真剣に考え、相手に自分の考えを明確に伝えようという思いをもって意見文を書くことを期待している。

(2) 児童の実態

児童はこれまでに、本単元の学習につながる内容として以下の学習を行っている。

「ゲストティーチャーをすいせんしよう（話す・聞く）」では、意見を明確にして人物を推薦するための話をするをねらい、「複数の理由を挙げる」「理由にまつわるエピソードを話す（事例）」ことを学習した。ここでは、田んぼの講師である山下さんの推薦文を書く学習を全体で行った後、自分の身近にいる推薦したい人の推薦文を書く活動を行った。児童は、選んだ理由とそのエピソードを推薦文に生かそうとしていたが、理由とエピソード（具体例）を区別する力は十分とは言えない。

「意見とその理由を聞き取ろう（話す・聞く）」では、話し手の意図をとらえ、ふさわしい理由を挙げて意見を述べているか考えながら聞くことをねらい、理由の妥当性を考える学習を行った。ここでは、話題の理由として挙げられている事柄が「話題からそれていないか」「偏った考えになっていないか」「内容に食い違いはないか」を観点に、意見の理由としてふさわしいものになっているか考えた。

こうして児童は、考えのもととなる理由は複数挙げた方がよいことや、意見にふさわしい理由を挙げることの大切さを学習してきた。

書くことについては、3年生・4年生の2年間「作文ノート」を活用し週1回は作文を書く活動を行ってきた。このことから、書くことに対して極端に抵抗を感じている児童は少ない。しかし、作文タイムでは、書く内容に悩んでしまい、なかなか題材を決められなかったり、3分間で100字を書くことができなかつたりする児童も数名いる。

5月に行った作文アンケートからもそのことが分かる。

	「はい」	どちらかと言 えば「はい」	どちらかと言 えば「いいえ」	「いいえ」
作文が好き	8人	18人	5人	2人
題材が見つけられる	7人	14人	10人	2人

考えを交流する活動は、国語の時間に意図的に組み入れている。物語の感想や説明文の要旨をまとめる活動などで、書き終えた児童からノートを持って席を立ち、友達とノートを交換し合って読み合う活動である。そこでは、友達の考えに共感したり多様な考えに刺激を受けたりしている。児童は、自分の考えを披露することに抵抗を感じることなく、この活動を楽しんでいる。

3 単元の計画

(1) 目標

自分の立場を明確にし、相手に自分の考えが明確に伝わるように工夫しながら、よりよいクラスにするための意見文を書くことができる。

【単元の評価規準】

○国語への関心・意欲・態度

- ・自分の考えを明確に伝えるための書き方を、進んで見付けたり活用したりしようとしている。

○書く能力

- ・自分の立場を明確にし、相手に自分の考えが明確に伝わるような構成を工夫しながら書いている。
- ・書いた文章を読み返し、自分の考えが明確に表現できているか確かめ、よりよい表現にするために改善すべき点はないか考えている。

○言語についての知識・理解・技能

・文や文章にはいろいろな構成があることを理解し、目的に合った構成を考えて書いている。

(2) 指導計画 (全6時間 本時 4/6)

次	時間	主な学習活動	評価規準
1	1	○「よりよいクラスにするための取り組みの継続」について自分の立場を明確にし、理由を挙げる。	・自分の立場を明確にし、立場にふさわしい理由を考えている。(書)
2	2	○意見文にふさわしい理由を選ぶ。 ○モデル文から「意見文の技①②③」を見付ける。 ○意見文の構成を考え構成表に書く。	・【意見文の技①②③】を進んで見付けようとしている。(関) ・自分の立場を明確にし、理由の選択や順序を工夫して構成を考えている。(書)
	3	○モデル文や構成表をもとに意見文を書く。 ○書いた意見文を友達と交流する。	・意見文の構成を理解し、自分の考えを伝えるための構成を考えて書いている。(言) ・よりよい表現にするために、【意見文の技①②③】を使って書いている。(書)
	4 本時	○モデル文から「意見文の技④」を見付ける。 ○技を使って意見文を推敲する。 ○推敲した文を友達と交流する。	・【意見文の技④】を進んで見付けようとしている。(関) ・よりよい表現にするために、【意見文の技④】を使って書いている。(書)
	5	○モデル文から「意見文の技⑤」を見付ける。 ○技を使って意見文を推敲する。 ○推敲した文を友達と交流する。	・【意見文の技⑤】を進んで見付けようとしている。(関) ・よりよい表現にするために、【意見文の技⑤】を使って書いている。(書)
3	6	○意見文を推敲する。 ○「意見文の技」を読みの観点として、意見文を交流し合う。	・書いた文章を読み返し、考えが明確に表現できているか確かめている。(書)

【意見文の技① 意見と理由を区別する】

「意見→理由→意見」の三段構成 (双括型の文)

【意見文の技② 理由を表す言葉を使う】

「なぜかという～だからです。」

「理由は3つあります。」

【意見文の技③ 順序や追加を表す言葉を使う】

「まず～。次に～。それから～。」 「それに～。」

【意見文の技④ 具体例を挙げる】

「例えば～。」 「例を挙げると～。」

「具体的に言うと～。」

【意見文の技⑤ 比べて説明する】

「～に対して～。」 「～に比べて～。」

「○○は、～。一方、△△は、～。」

(2) 指導の構想

① 「書きたい内容」「書く目的」をもたせるための題材の工夫

ア 児童の生活に密着した意見文題材の設定

教科書で提示されている題材は、「夏休みの宿題の内容は、自分で決めるべきである。」「子どもだけで、知らない町に行くべきではない。」などの身近な問題である。自分の経験をもとに理由付けができる内容となっている。しかし、その意見文が児童の実際の生活にかかわるものではない。

そこで、児童がより主体的に問題意識をもって考え、書いた意見文が自分たちの生活につながるような題材を設定する。意見文の題材を「よりよいクラスにするための取り組みの継続について考えよう」とし、学級力を高めるための取り組みの継続について賛否を問う。行ってきた取り組みは以下の3つである。

- 1 「週3回25分休みにみんなで大縄練習をする。」
- 2 「友達の発言や発表に反応する。」
- 3 「一週間忘れ物がなかったら、翌週の月曜日の給食を自由席とする。」

約一ヶ月行ってきたこれらの活動の中から一つを選び、それを今後も続けるか否かを考える。ここでは、この一ヶ月の取り組みの様子やクラスの変容など児童が体感したことが考えのもととなる。また、本単元に入る前に再度学級力アンケートを採る。その結果も客観的な数値として考えを支える資料となる。

② 「書き方」が分かり書けるための手だての工夫

ア 「意見文の技」の設定とモデル文の活用

意見文を書く力を高めるために、よい意見文を書くためのポイントを「意見文の技」として提示する。その際、モデル文を活用してその技に気付かせる。気付かせたい技は下の5つである。

意見文の技①	意見と理由を区別する	「意見→理由→意見」の三段構成
意見文の技②	理由を表す言葉を使う	「なぜかという～だからです。」 「理由は3つあります。」
意見文の技③	順序や追加を表す言葉を使う	「まず～。次に～。それから～。」 「それに～。」
意見文の技④	具体例を挙げる	「例えば～。」 「例を挙げると～。」 「具体的に言うと～。」
意見文の技⑤	比べて説明する	「～に対して～。」 「～に比べて～。」 「〇〇は、～。一方、△△は、～。」

これらの技を段階的に提示し、一つ一つの技を使った推敲を重ねながら確実な定着を図りたい。技を提示する際、モデル文は前時のものと比較させ、その技の効果を実感させる。技を活用することで意見文がよくなっていくことを実感させ、自分も技を使って意見文をよりよくしたいという意欲をもたせたい。

イ 学習のサイクル化

意見文の技を学習する時間は、「技を見付ける→推敲する→交流する」の一連の流れで行う。見付けた技を使ってよりよい表現に書き直し、友達と交換し合って読んで確かめ合うことで、自分の文章がどんどんよくなっていくことを実感させたい。

また、毎時間、観点を絞って技を提示しながら学習することで、視点を明確にした推敲を行うことができる。学習の流れも明確になり、効率のよい学習活動が展開できると考える。

ウ 交流の場の設定

理由や具体例を考える活動、推敲した文章を読む活動では、交流の場を設定する。自分で考えたことを友達に伝えたり一緒に考えアドバイスをし合ったりすることを通して、考えを共有しながらよりよい意見文に仕上げていく。

理由や具体例を考える時には、選んだ取り組みが同じ仲間同士で交流する。共通の話題で話し合わせることで意見文の材料となる情報を共有させたい。学習した技を使って推敲した意見文を交流する場面では、相手を決めず自由に交流させる。ここでは、終わった児童から教室内の空間で自由に交流する。互いの文章を交換して読み合うことを通して、友達の表現のよさを見付けたり技の効果を実感させたりしたい。

また、単元の終末には、「意見文の技」を読みの観点として、書き上がった意見文を交流する。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

自分の考えが分かりやすく伝わるような意見文を書くための【意見文の技④ 具体例を挙げる】のよさを実感し、その技を使って自分の意見文を推敲することができる。

(2) 本時の構想

前時まで、「よりよいクラスにするための取り組みの継続についての賛否」について考え、自分の立場を明確にし【意見文の技① 意見と理由を区別する】【意見文の技② 理由を表す言葉を使う】【意見文の技③ 順序や追加を表す言葉を使う】を使った意見文を書いている。本時では、よりよい意見文にするための【意見文の技④ 具体例を挙げる】をモデル文から見付け、その技を使って意見文を推敲する。

① モデル文の活用

提示するモデル文は2種類ある。一つは具体例の入っていないもの（前時に提示したモデル文）、もう一つは具体例の入っているものである。比較して読むことで、その違いは明確になる。具体例がある文とない文では、どのように違うかを考えさせ、その効果を実感させたい。

また、具体例を示す言葉には「例えば」「例を挙げると」「具体的に言うと」など、いろいろな書き方があることにも気付かせ、推敲するときにはその中から選んで使わせたい。

さらに、具体例の内容としてふさわしいものに気付かせるためにもモデル文を活用する。具体例を挙げるよさは分かっても、どのようなものが具体例にあてはまるかが曖昧では考えにくい。そこで、モデル文から見付けた内容から、具体例の条件を明確にする。具体例とは、「特定の出来事（エピソード）や具体的な数、特定の人物の名前や言葉、などが入ったもの」とする。

② 友達と交流する場の設定

本時では、友達と交流する場を2回設定する。1回目は、「具体例を考える場」、2回目は、「推敲した意見文を交換して読み合う場」である。

具体例を考える場では、まず個人で活動を行う。意見文のどこにどのような具体例が入るかを考え、その具体例を付箋紙に書いて意見文に貼る。その後、選んだ取り組みが同じ者同士で交流し、それぞれの考えた具体例を読み合う。ここでは、「理由に合った具体例か。」「具体例の条件が入っているか。」を読み方の観点とし、よさを見付けたりアドバイスしたりする。もし、一人では具体例が思い付かない児童がいたら、友達の考えを参考にさせたりグループのメンバーと一緒に考えさせたりする。

交流を通して推敲が終わった児童から、教室内の空間で友達と意見文を交換して読み合う。このときの交流の相手は自由とする。相手を特定しない方が、いろいろな意見文と出会えるからである。本時2回目となるこの交流は、「意見文の技④ 具体例を挙げる」を使って推敲した文章を読み合い、相手の意見文のよさを見付けたり、具体例を入れる良さを実感したりすることをねらって行う。

(3) 展開

学習活動 (時間)	教師の働きかけ (T) 予想される児童の反応 (C)	○指導上の留意点 ☆手立て ◎評価
モデル文から「意見文の技④」を見付ける。 (15分)	T 意見文をよりよくするためにはどんなことを書いたらよいだろう。 C 理由をもっと詳しく説明した方がよい。 T 2つのモデル文を読み比べて、「意見文の技」を見付けよう。 C 「例えば」という言葉で理由に付け足しがしてある。 C 「例を挙げると」や「具体的に言うと」という言葉もある。 C 具体例がある方は、考えがはっきり伝わって分かりやすい。 C 数や人の名前を使って詳しく書いている。	○新たな技の学習に意欲をもたせる。 ○具体例の入っていないモデル文（前時に提示した文）と、具体例の入っているモデル文の2つを並べて提示する。児童全員にも印刷して配布し、新たな技だと思ふ部分に印を付けさせる。 ☆比較して読み、具体例の書き方や考えの伝わり方を話し合わせることで技の効果を実感させる。 ○説得力という言葉にもふれる。 ◎意見文の技を進んで見付けようとしている。(関)

<p>【意見文の技④】を使って文章を推敲する。(20分)</p> <p>① 個人 (7分)</p> <p>↓</p> <p>② グループ (10分)</p> <p>↓</p> <p>③ 個人 (3分)</p>	<p>意見文をよりよいものにするために、【意見文の技④ 具体例を挙げる】を使って書こう。</p> <p>T 理由に合った具体例を考えよう。 まずは、個人で考えて付箋紙に書こう。</p> <p>C 〈例：大縄練習〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>アンケートの「みんなで挑戦」のところは、76から97に上がったけど、「思いやり」のところは90から76に下がっている。(反対)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>練習を始めたときは110回しか跳べなかったのが、今では180回跳べるようになった。(賛成・反対)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〇〇さんが、大縄練習をするようになってから、前よりも学校が楽しくなったと言っていた。(賛成)</p> </div> <p>T 同じ取り組みを選んだメンバーで具体例を交流しよう。</p> <p>C 理由に合った具体例が書けているね。</p> <p>C 数が入って分かりやすいね。</p> <p>T 交流し合ったことをもとに、具体例を決めて書こう。</p> <p>C 大縄練習を続けることに反対です。なぜなら、もう上手に跳べるようになったからです。<u>具体的に言うと、練習を始めたときは120回しか跳べなかったのに、今では180回も跳べるようになりました。</u></p> <p>C 忘れ物についての取り組みを続けることに賛成します。理由は三つあります。まず、忘れ物に気を付ける人が多くなったからです。<u>例えば、〇〇さんは、毎日ねる前に持ち物の点検をするようになったそうです。</u></p>	<p>☆具体例の条件を、「特定の出来事(エピソード)や具体的な数、特定の人物の名前や言葉、などが入ったもの」とする。</p> <p>○考えた具体例を付箋紙に書かせ、意見文に貼らせる。具体例は1つ見付ければよしとする。</p> <p>○1時間目に見付けた理由メモや、学級力アンケートの結果・大縄練習の記録表なども活用し具体例を見付けさせる。</p> <p>○具体例の条件を意識して考えさせる。</p> <p>○ペアをつくりながら交換して読み合う。時間のある限り、いろいろな友達と交換して読み合わせる。</p> <p>○「理由に合った具体例か」「具体例の条件が入っているか」を確認させる。</p> <p>☆具体例が思いつかない児童には教師が見付けた具体例を助言したり、メンバーと一緒に考えさせたりする。</p> <p>○付箋紙のままでよい場合は、そのままでもよいこととする。原稿用紙に書き直したい場合は、横に差し込ませる。</p> <p>◎よりよい表現にするために、【意見文の技④ 具体例を挙げる】を使って書いている。(書)</p>
<p>推敲した文章を友達と交流する。(10分)</p>	<p>T 友達と意見文を交換し合って読み合おう。</p> <p>C 具体例が入って、意見が分かりやすくなったよ。</p> <p>C 技が上手に使ってあるね。</p> <p>T 紹介する数人の意見文を聞こう。</p>	<p>○推敲が終わった児童から自由に交流させる。</p> <p>○友達の意見文のよいところを伝え合わせる。</p> <p>☆具体例を効果的に使っている児童の文章を紹介する。</p>

(4) 評価

- ・意見文の技を進んで見付けようとしているか。
- ・よりよい表現にするために、【意見文の技④ 具体例を挙げる】を使って書いているか。

第5学年 算数科実践のまとめ

【私の主張】

＜本時で目指す子どもの姿＞

既習事項（長方形や平行四辺形の面積）を使って三角形の面積の求め方を考え、図、式、言葉で説明することができる。

＜そのための手だて＞

- ア 既習事項（平行四辺形の面積の求め方）を掲示する。
- イ 説明の順序やアドバイスを書き込んだワークシートを使う。
- ウ 全体で考えを交流した後、自分の考えを言葉と式で書かせる。
- エ 考えを説明し合う場を設ける。

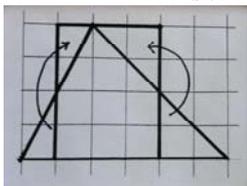
1 単元名 「図形の面積」

2 学習の様子

(1) 既習事項を使って求め方を考えることについて

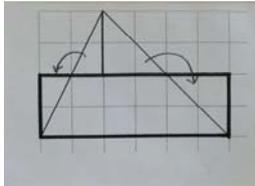
既習事項の掲示物を示し平行四辺形を長方形に直して面積を求めたことを思い起こさせ、三角形の場合も知っている図形に直して面積を求めることができないだろうかと問いかけた。「三角形を2つ組み合わせると平行四辺形になる（指導案C④の考え）」「三角形の上部を切って左右に付けると長方形になる（指導案C①の考え）」というアイデアが出た。その後、各自で操作をしながら求め方を考え図に書き込んだ。子どもたちは、次の5通りの考えで求めた。

＜等積長方形＞



$$4 \times 3 = 12$$

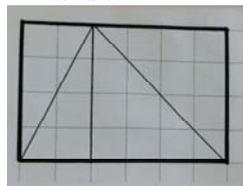
＜9名＞



$$2 \times 6 = 12$$

＜3名＞

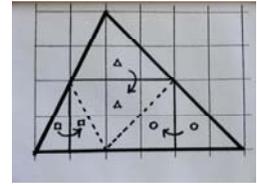
＜倍積長方形＞



$$4 \times 6 \div 2 = 12$$

＜3名＞

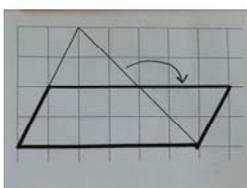
＜1/2長方形＞



$$2 \times 3 \times 2 = 12$$

＜4名＞

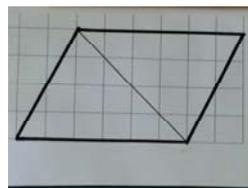
＜等積平行四辺形＞



$$6 \times 2 = 12$$

＜1名＞

＜倍積平行四辺形＞

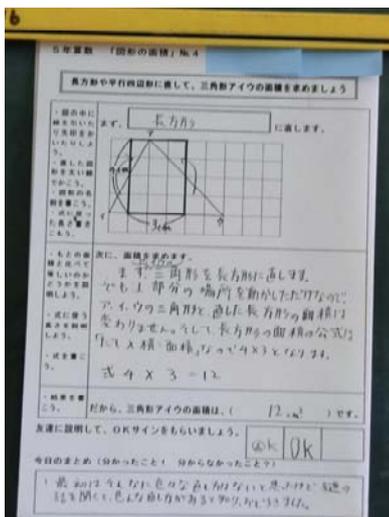


$$6 \times 4 \div 2 = 12$$

＜7名＞

(2) ワークシートに解き方を記述することについて

本時では、ワークシートに解き方を記述する時間を2回設定した。1回目は、操作をしながら図に変形のアイデアを書き込み、2回目は全体交流の後に言葉と式での説明を書かせた。全体交流では、上記の5通りの考えを発表させ、変形した図形の面積がもとの面積と等しいか2倍かまたは1/2か、どの長さを使って式を立てたか、どんな式になったかを全員で確認した。2回目の記述では、それらのことを言葉と式で表すように指示した。



<ワークシート>

< A児の説明 > 【倍積平行四辺形に変形】

まず、もとの三角形を2倍して平行四辺形にします。
次に、その平行四辺形の面積を求めるために、 6×4 （底辺×高さ）をします。
最後に、その平行四辺形は、もとの三角形を2倍したものなので $\div 2$ をします。

式 $6 \times 4 \div 2 = 12$

答え 12 cm^2

< B児の説明 > 【倍積長方形に変形】

上の長方形の面積は、もとの三角形の2倍です。
「4」はたてのところで、「6」は横のところ。

たて よこ

式 $(4 \times 6) \div 2 = 12$

答え 12 cm^2

(3) 説明し合うことについて

授業の最終に、同じ考えで求めた者同士で、ワークシートを見せ合い図を指で示しながら説明をさせた。ワークシートには全員が言葉と式で記述できていたが、相手に分かるように図を示しながら声に出してなめらかに説明することができた児童と、書いたものを読むだけの児童がいた。後者は、工夫して面積を求めることや説明に必要なことを満たして記述することはできたが、まだ自分のものとして理解ができていなかったと言える。求め方を記述するだけでなく、図を指し示したり相手に分かったかどうかを確認したりしながら説明する力を付ける必要がある。

3 成果と課題

○ 既習事項の活用について

平行四辺形を長方形に直して面積を求めた学習を振り返らせたことによって、知っている図形に直せばできるという見通しをもたせることができた。友達のアイディアを聞き、同じようにやってみようとするよりも、それをヒントに別の方法を考えようとする児童が多かった。掲示物から学習を振り返らせた効果もあるが、様々な求め方を考える楽しさの経験の積み重ねが既習事項を使って解いてみようとする意識の醸成につながるものと考えられる。

○ 求め方の説明について

上記のA児のように「まず、次に、最後に」や「～を求めるために～する」「～なので～する」という言葉を入れて記述した児童と、B児のように指示されたことだけを書いた児童がいた。ワークシートにあらかじめ、「～だから～」という枠を作っておき穴埋め式にすることも考えたが、あえてその方法をとらなかったのは、穴埋め式では多様な求め方に対応できないと予想したからである。筋道立てた説明ができるようにするためには、よりよい説明の仕方を検討させる場が必要である。求め方を記述する機会を多く設定するだけでなく、説明に必要な内容を落ちなく記述する段階から筋道立てて分かりやすく説明する段階へと発展させていく指導過程の工夫が今後の課題である。

○ 説明し合うことについて

本時の子どもたちの様子から、求め方を書くことよりも相手に分かるように指し示しながら話す方が難しいという当たり前のことを改めて確認できた。友達に教えることができなければ理解できていないとも言えるが、教えることを通して理解することができるとも言える。授業の中で、もっと考えを説明し合う機会を増やしていかななくてはならない。それには、1時間の中に短時間でもペア学習・グループ学習を組み入れる工夫が必要である。

第5学年 算数科学習指導案

12月7日(水) 3校時

指導者 知本 恵子

1 単元名 「図形の面積」

【私の主張】

① 主張したいこと

＜本時で目指す子どもの姿＞

既習事項（長方形や平行四辺形の面積）を使って三角形の面積の求め方を考え、図、式、言葉で説明することができる。

＜そのための手だて＞

ア、既習事項（平行四辺形の面積の求め方）を掲示する。

イ、説明の順序やアドバイスを書き込んだワークシートを使う。

ウ、全体で考えを交流した後、自分の考えを言葉と式で書かせる。

エ、考えを説明し合う場を設定する。

② 授業で見てほしいところ

○ 三角形を長方形や平行四辺形に変形する方法を操作を通して考え、図に書き込むことができたか。

○ 変形した図形の面積がもとの図形の面積と等しいまたは2倍になっていることを根拠にして言葉と式で説明をすることができたか。

2 単元と児童

(1) 単元について

平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの基本図形について求積に必要な長さを測り、公式を用いて面積を求めることができるようにすることがねらいである。三角形や四角形などの基本図形のほとんどは、既習の図形に帰着して求積することができるので、既習の知識・技能をもとにして具体的な操作活動を通しながら、新しい基本図形の求積公式を導き出す経験を児童にさせたい。その過程で、自ら考えた方法を図や式、言葉で説明させることが表現力・思考力を伸ばすために重要であるとする。

(2) 児童の実態

学習指導改善調査では、全ての問題で正答率が県平均を上回っていた。その中で、正答率が最も低かったのは、グラフから読み取ったことの原因をグラフの数値を用いて説明する問題である。グラフから読み取る問題の正答者のうち理由の説明ができたのは、わずか1/3弱であった。答えを導き出す過程を順序よく説明する力に課題があることが分かった。

これまでの授業では、自分の考えを式や言葉でノートにメモさせたり互いに説明させたりしてきたが、説明の仕方についての指導が弱かった。本単元では、自ら考えた面積の求め方を説明する場面を意図的に取り入れ、筋道立てて説明することに力を入れて指導したい。

3 単元の計画

(1) 目標

○ 平行四辺形や三角形、ひし形、台形の面積の求め方を、既習の正方形や長方形の求め方をもとに考えようとしている。(関心・意欲・態度)

○ 既習の求積方法をもとにして、倍積変形・等積変形などの操作を通し、図形の面積の求め方を考えている。(数学的な考え方)

○ 求積公式を活用し、基本的な図形の面積を求めている。(技能)

○ 平行四辺形、三角形の面積の求め方や求積公式の意味を理解している。また、平面図形の面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。(知識・理解)

(2)指導計画 (全14時間 本時5/14)

次	時間	学習活動
1	4時間	・平行四辺形を長方形に等積変形して、面積を求める。 ・平行四辺形の求積公式の意味を理解する。 ・求積公式を活用し、平行四辺形的面積を求める。
2	4時間 (本時1/4)	・三角形を長方形・平行四辺形に等積・倍積変形して、面積を求める。 ・三角形の求積公式の意味を理解する。 ・求積公式を活用し、三角形の面積を求める。
3	3時間	・必要な長さを調べ、台形・ひし形的面積を計算で求める。 ・台形・ひし形の求積公式を理解し、面積を求める。 ・一般の四角形や五角形を既習の図形に分割し、面積を求める。
4	3時間	・練習・調査問題・まとめ

(3)指導の構想

① 既習事項を使って課題解決に取り組ませる。

本単元では、平行四辺形→三角形→台形→ひし形の順に学習を進める。平行四辺形的面積は、長方形を基にして求め、三角形の面積は長方形と平行四辺形を基にして求めるというように、既習事項を使って新しい図形の求積方法を考えていく。そのため、既習事項を児童自身が使おうとするように意識づけたり、忘れていたことを思い出せるようにしておくことが必要である。既習の図形の求積方法や説明する時のポイントを常時掲示しておき、課題解決の見通しを立てる際に振り返る機会を作りたい。

② 考えを説明する際の順序やアドバイスを示す。

求積の過程を説明する力をつけるために、単元を通して説明の機会を多く設ける。基本的な説明の仕方を使って問題場面を変えながら繰り返し説明させることを通して身に付けさせていく。身に付けさせたい説明の仕方として、「まず～する。次に～を求める」という順序、図への書き込み、式の理由づけがある。順序を表す言葉や図、アドバイスを示したワークシートを用意し、それに沿って書き込んでいけるようにする。友達との意見交流の後で、説明を見直し足りないところを補って説明を完成させ学習の記録として残しておくようにする。

4 本時の指導

(1)本時のねらい

三角形を既習の図形(長方形・平行四辺形)に等積・倍積変形し、面積の求め方を考え説明する。

(2)本時の構想

本時までに、平行四辺形の求積を学習している。本時では、三角形の面積の求め方を考えて紹介し合い、出された方法を比べながら、三角形の面積を求めるためには底辺と高さが必要であること、 $\div 2$ をすることに気付いていく場面である。図、式、言葉を使って説明する姿を目指し、次の手だてを考えた。

ア 既習事項(平行四辺形の求積方法)を掲示する。

前時までに学習した平行四辺形的面積の求め方の説明を掲示しておく。三角形の面積でも、既習の方法を使えないかと働き掛け、知っている図形(長方形・平行四辺形)に変形させるとできそうだという解決の見通しをもたせる。

イ 説明の順序やアドバイスが書き込まれたワークシートを使う。

ワークシートには、①図形の変形、②計算、③結果の順に説明できるように、順序を示す言葉や図形の入った枠をあらかじめ印刷しておく。

「①図形の変形」では、切って動かしたのか(等積)、三角形を2つ組み合わせたのか(倍積)が図を見て分かるように、動かした矢印・変形させたてできた図形を書き込ませる。

「②計算」では、式を書かせ、式の中で使った長さがどの部分かが分かるように図をなぞらせる。全体での交流の後で、等積・倍積を根拠とした言葉での説明を書き加えさせる。

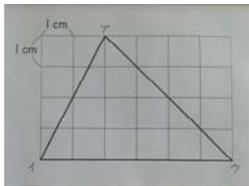
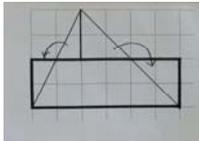
ウ 全体で考えを交流した後、自分の考えを言葉と式で書かせる。

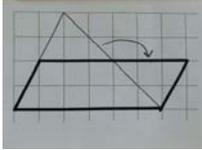
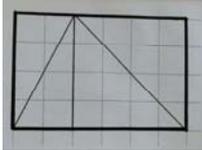
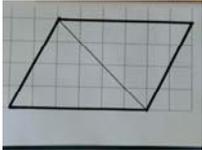
自力で式の理由づけができる児童は少ないと思われるので、説明に必要なことを全体交流の場で押さえてから書かせることとする。「長方形・平行四辺形／等倍・2倍」の4種類の求め方が出ると予想する。これらの共通点・相違点に着目させ、変形した図形がもとの三角形の面積と等しいものと2倍のものがあることに気付かせる。「～の面積は、～の面積の(と)～だから」の型を示し、言葉を当てはめて説明を書かせる。

エ 考えを説明し合う場を設ける。

書いたものを実際に話してみることで説明の仕方に慣れさせる。ワークシートを持ち寄り、図を指しながら説明して相手に分かってもらえるかどうかを確認する。不十分な場合は教え合って書き直すことができようと同じ考え同士で行う。良かった場合はOKサインをもらい、他の考えの友達にも説明する。

(3) 展開

学習活動(時間)	教師の働き掛け(T) 予想される児童の反応(C)	指導上の留意点
1 本時の課題をとらえ、見通しをもつ。(5分)	<p>T 三角形アイウの面積の求め方を考えましょう。</p>  <p>C 平行四辺形の時は、長方形に変えて求めたね。 T 三角形をどんな形に変えれば面積が求められそうですか。 C 切って動かすと平行四辺形に変えられそうだな。 C 長方形にもできそうだな。</p>	<p>○既習事項の掲示物を示し、平行四辺形の面積の求め方を想起させる。</p> <p>○変形のアイディアを出させ、自分ができるような方法を見つけさせる。</p>
2 操作しながら図形を変形させ、面積の求め方を考えて、ワークシートの図に書き込む。(10分)	<p>平行四辺形や長方形に変えて面積を求めましょう</p> <p>T どのように形を変えたのかが分かるように図に書き込みましょう。 C 三角形の上の部分を切って動かすと長方形になる。できそうだな。 C 三角形の上の部分を切って動かすと平行四辺形になる。 C 三角形を縦に切って二つずつくっつけると長方形になる。長方形の面積を半分にするればいい。 C 三角形を逆さにしてくっつけると、平行四辺形になる。はじめの三角形の面積の2倍だな。</p> <p>T 友達は自分と同じ考えでしょうか。近くの友達と紹介し合ひましょう。 C ぼくは、長方形にしたけど、平行四辺形にもできるんだね。 C 私は、三角形を2つ組み合わせたよ。</p>	<p>○ワークシートには、①図、②計算、③結果の枠を設けておく。</p> <p>○分割移動の操作を通して、変形の方法を考えさせる。</p> <p>○図には、移動したことを矢印で示し、変形させた図形を太線で描くように指示する。</p> <p>○図がかけた児童には式を考えさせる。</p> <p>○考えを紹介し合ひ、自分の考えを確認する。友達の考えを取り入れて書き足してよい。</p>
3 全体で変形の仕方を出し合い、式を考える。(15分)	<p>T どのように形を変えたのか発表してください。それぞれ、どんな式になるのでしょうか。</p> <p>C① 切って動かし長方形に直す。長方形の縦は2cm、横は6cmだから $2 \times 6 = 12$</p> 	<p>○発表の順序として、面積・図形のどちらかが共通するものを次に発表させ、似ているところに意識を向けさせる。</p>

	<p style="text-align: center;">12 cm^2</p> <p>C② 切って動かし平行四辺形に直す。 底辺は6 cm、高さは2 cmだから、 $6 \times 2 = 12$ 12 cm^2</p> <p>C③ 縦に切った三角形を2つ合わせて長方形にする。 $4 \times 6 = 24$ 面積はその半分だから $24 \div 2 = 12$ 12 cm^2</p> <p>C④ 三角形を2つ合わせて、平行四辺形にする。 底辺が6 cm、高さが4 cmだから $6 \times 4 = 24$ 面積はその半分だから $24 \div 2 = 12$ 12 cm^2</p>	  	<p>○変形した図形が、長方形・平行四辺形であることを押さえる。</p> <p>○面積が等しいまたは2倍に直していることを押さえる。</p> <p>○変形した図形を見て面積を求める式を考えさせる。</p> <p>○式の中の数値がどの長さを表しているのかを確認し、図形に色ペンで書き込む。</p> <p>○児童から4種類の求め方が出なくてもよしとする。倍積(③④)がでなかった場合には、教師が④を提示する。</p>
<p>5 説明に必要なことを確認し、言葉と式で説明を書く。 (8分)</p>	<p>T ①～④の答えは同じですが、直した図形や面積が等しいか2倍かが違いましたね。あなたの考えが分かるように言葉と式で書いてください。 ※説明に必要なことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変形した図形の名称 ・もとの面積と等しいか ・使った長さ(縦が4 cmなど) <p>C <言葉と式で説明を書く></p>	<p>○面積が等しい、または2倍であることを根拠にして書けるようにしたい。</p> <p>○書き方の型として「～の面積は～の面積の(と)～だ」「～だから」を提示する。</p>	
<p>6 友達同士で説明し合い、本時のまとめを書く。 (7分)</p>	<p>T 同じ考えの人同士で説明し合い、納得できたらOKサインを書いてあげましょう。</p> <p>C <説明し合う></p> <p>T 「今日のまとめ」を書きましょう。</p> <p>C 直した図形が違うと式も違うけれど、使った長さには同じところがある。直さなくても、式だけでも求められそう。</p>	<p>○うまく説明できない友達には教えてやるように指示する。</p> <p>○早く終わったら、違う考えの人にも説明する。</p> <p>○分かったマーク「！」とはてなマーク「？」を使ってまとめさせる。</p>	

評価

- ・三角形の面積の求め方を図、式、言葉を使って説明することができたか。

第6学年 実践のまとめ

<本時で目指す子どもの姿>

○必要なキーワードを使って自分の考え方を説明する子ども

<そのための手立て>

○説明に使うデータを自分たちで見付けさせることで、身近なものとして扱わせる。

○既習事項をキーワードとして提示する。

○説明の仕方をパターン化したフリップの工夫

○班ごとの意見交流の場の設定

○発表場面での確認指名

1 単元名 「比例と反比例」

2 成果と課題

①データについて

本時で使用するデータを事前に統一し、一般化しておいたことは本時のねらいである「考え方を説明する」場面に児童を集中させる面で有効であったと考えている。実験につきものの誤差や意識の拡散をすでに解決しているの、意識を一本化しやすかった。しかもそれが自分たちの出したデータであり、与えられたデータではないので課題に向かいやすかったように感じた。

②キーワードについて

今回取り上げたキーワードは、5年で学習した「単位量当たりの大きさ」「比例」と6年で学習した「比」の3つである。比例は単元名から想起しやすかったであろうし、比も最近学習したばかりなので子供たちからスムーズに出てきた。しかし、単位量当たりの大きさという概念は取り上げ方も違い、学習時期もかなり以前のことになるのでなかなか出てこなかったためこちらから提示する形をとった。2量の関係を変化の中ではなく、比較という形で取り上げた大切な概念なので是非取り上げたかったからである。実際に3つのキーワードを使ってフリップに書き込んだ考え方をみると、表で表す形が多く、それほど3つの概念の書き分けを意識したところは多くは見られなかった。しかし、別のとらえ方からすれば、それはこの3つの考え方が同じ関係性を表しているからであり、終盤のまとめにつながるものになっていたと考えている。

③フリップについて

最初にキーワードを書かせることで、その概念にあった説明をさせたいと考えたが、上記の通り概念別の書き分けは明らかではなかった。その意味でフリップの工夫が児童の表現を規定する役割を果たしていないことになり、有効な手立てとはいえなかったことが分かった。今回のこのフリップの役割は結果的に自分の考えを整理したり、他に自分の考えを伝えたり、個々の意見を分類したりするためであったと考えている。

④意見交流・発表について

他と意見を交流させることで自分の意見を見直したり、不完全な部分を補足したりする姿が見えていたので、取り入れた意味はあったと考えている。実際にその後黒板にフリップを貼る段階で全員が自分の意見を書いて張り出すことができたことからその有効性は伺える。さらに発表の場面で言語化して説明する場面を確保したことでより理解が深まったと感じている。一人目の発表から二人目、三人目と発表していく中で内容が整理され、考えが明らかになっていったからである。もう少し時間がとれ、より多くの子供たちに意見を述べさせることができれば、さらに理解を広げるこ

とができたと思われる。

⑤課題について

「キーワードを使って説明する子ども」が目指す姿であったわけだが、そのキーワードの扱い方について整理されていなかったため、概念ごとの書き分けが明らかにならなかったと考えている。説明の中でどのように使えばいいのかを示す工夫が必要であったと感じた。

さらに意見交流や発表場面の時間設定が不足しており、理解を深めたり、考えを練り上げたりするゆとりがなかった。他との関わりの中で学習を進めていかせるにはそれなりの時間がかかることなのでその点を考慮した指導計画が必要であると改めて思った。

第6学年1組 算数科学習指導案

平成23年11月30日(水)
授業者 星加 正広

1 単元名「比例と反比例」

【私の提案】

①主張したいこと

<本時で目指す子どもの姿>

○必要なキーワードを使って自分の考え方を説明する子ども

<そのための手立て>

○説明に使うデータを自分たちで見付けさせることで、身近なものとして扱わせる。

○既習事項をキーワードとして提示する。

○説明の仕方をパターン化したフリップの工夫

○班ごとの意見交流の場の設定

○発表場面での確認指名

②授業で見て欲しいところ

○既習事項(キーワード)を使って出し方をフリップに書くことができたか。

○自分の出し方を言葉で説明することができたか。

2 単元と児童

(1)単元について

本単元は伴って変わる2つの量の関係について考えていく単元である。比例は倍概念を基本とし、これまでの既習事項につながる2量の関係と言える。5年の比例はもちろん、単位量あたりの大きさ、比もそれにあたり、操作上は分数の通分も同一線上に位置している。

そこに本単元で反比例という新しい関係を導入していく。倍概念のかけ算からわり算への拡張である。これによって小学生段階の2量の関係性は完結する。

既習事項との関係の深さから、これまでの学習を生かして展開を進めていくことが大切である。

(2)児童について

県小研学習指導改善調査において、キーワードを使って式の意味を説明するという問題の正答率が他と比較して低く、49.7%であった。せっかくキーワードを取り入れて書いてもそのキーワードの位置づけを押さえないため、筋道の通った説明になっていないというのが誤答例の代表である。キーワードは説明をする際のパーツである。そのパーツのつながりを示さないと論理の全体が見えてこない。その点で、キーワードを筋道の中に位置づけて説明させる力を付ける指導が必要である。

3 単元の計画

(1)単元の目標

●伴って変わる2つの量の関係を考察する。[D(2)]

・比例の関係について理解する。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べる。[D(2)ア]

・比例の関係を用いて、問題を解決する。[D(2)イ]

・反比例の関係について知る。[D(2)ウ]

(2)単元計画

次	時	学習活動
1	6 (本時2/6)	比例の意味を理解する。 比例する2つの数量の関係を表す文字の式を理解する。

2	2	比例のグラフを書くことができ、グラフの特徴を理解する。 グラフから数量の関係を読み取ることができる。
3	3	比例の関係をを用いると、能率良く処理できる事象があることを知る。 比例の関係を表す式やグラフを用いて、問題を解決する。
4	4	比例の場合と対比しながら、反比例する2つの量の変わり方を調べて、その特徴をつかむ。 反比例の意味を理解する。
5	1	練習・力だめし

(3) 指導の構想

①既習事項とのつながりを意識させる。

今回の2量の関係自体は児童にとって目新しい関係性ではない。むしろいつものといっても過言ではない。だからこそこれまでの既習事項との関連性を押さえ、意味の統合を図る必要がある。そのため指導の際には既習事項ではどうであったかを振り返らせる機会を設けていきたい。

②児童にとって生きたデータを使う。

比例になると2量の関係も式化され、抽象性が高まってくる。その場合、どうしても現実の量感から遊離してしまう。そのため、実際の量を取り扱う場面を設定することで、その関係性に具体的なイメージを持たせていきたい。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

○既習事項を使って、枚数の調べ方を説明する。

○既習事項の共通点に気付く。

(2) 本時の構想

前時で紙の束の枚数を調べるための方法を考え、必要なデータを測る活動を行う。この場合、重さと枚数の関係及び厚さと枚数の関係が視点になると考える。それぞれの場合につき、調べ方をあげさせ、その調べ方について全体に知らせた上で、実際に測らせていきたい。こうした測定値の場合、どうしても誤差が生じるので修正するために多くのデータを挙げさせ、それを平均化することでデータの一本化を図りたい。重さ、厚さ共に全体量は同じになるが、単位量をどの大きさにするかは決まっていない。そこで重さであれば1枚の重さと1グラムの枚数にし、厚さであれば1mmの枚数と1cmの枚数を単位量として取り上げていきたい。都合 4 種類のデータに集約して本時につなげていく。

本時では、前時のデータを用いて既習事項を使って枚数を調べ、その方法を説明する。さらに、出てくる枚数の違いが考え方の違いではなく、使ったデータの違いに依存することに着目させ、考え方の共通点に気付かせていきたい。

まず枚数を調べる考え方として既習事項を提示する。「単位量当たりの大きさ」「比例」「比」の3つだが、この言葉を必ず使って出し方を説明するように指示する。次に4種類のデータのどれを使うか決めさせ、データごとにフリップの色が違うことを説明する。こうすることで答が同じものの共通点がデータにあることに気づきやすくなると思われる。

個人作業でフリップにキーワードと出し方、答を書かせる。一つのキーワードでできたら別のキーワードでも試してみるよう指示し、できるだけ多くの考え方で試すよう働きかける。次に班ごとに意見交流の時間を設ける。これは、人に説明する練習と他の意見を聞くことでその考え方を取り入れさせるために行う。この時、まだ個人では書けていない児童も他の意見を参考にして書いてもよいこととする。

その後、書いたフリップをキーワードごとに分類して黒板に掲示する。ここで出し方について説明をさせるが、最初は自信のある子からさせ、同じ説明の仕方でもよいので何人かに説明させるようにしたい。

次に一つのキーワードを取り上げ、答に着目させていく。すると、同じ考え方でも答が違うものがあり、同じものはフリップの色、つまり同じデータを使っているものであることに気付くと考える。それをさらに広げて別のキーワードにいても、やはり色別に答が決まっていることを確認していきたい。

最後に同じ答えだが、キーワードが違うフリップの中から同じ数のかけ算になっていることが見取りやすいものを3種類選び出し、その共通点を考えさせ、比例の性質をまとめていきたい。その後、答え合わせをするが、ここではデータによる誤差についてあまり深入りすることなく認める方向でまとめていきたい。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点
本時の課題を把握する。	T…今日は先日測ったデータを使って紙の枚数を調べます。「単位量当たりの大きさ」「比例」「比」のキーワードの中から一つ選び、出し方も書きなさい。	○出し方は、言葉・式・表など、形式にはこだわらない。
キーワードを使って枚数の出し方を書く。	T…自分が使うデータのフリップに書きましょう。	○いろいろなキーワードで試すように指示する。 ○分かりやすいようにペンで書かせる。
班ごとに考えを交流する。	T…班ごとに自分の考えを発表し合い、自信を持って説明できるようにしましょう。 C…単位量当たりの大きさの考え方を使得、1cmの枚数が108枚で、全体で○cmだったから○倍して□枚になりました。	○出し方の書き方は自由だが、説明する際にはきちんと言葉でするように指示する。 ○まだ書けていない児童は、人の発表を聞く中で書かせ、1人1枚は書けるようにする。
キーワードごとにフリップを分類し、答との関係性を考える	T…キーワードごとにフリップを黒板に貼り、それぞれ答が同じか確かめましょう。 C…比が多いな。 C…同じキーワードでも答を違うぞ。 C…同じ色は答が一緒だ。 C…キーワードが違っても色が同じなら答も一緒ですね。	○キーワードごとに何人か出し方を説明させる。 ○始めに同じキーワードごとに確認し、色によって答が違うことを押さえる。その上で違うキーワードでも、色が同じなら答も同じになることを確かめる。
違うキーワードの出し方の共通点に気付く	T…違うキーワードでも同じ答になったのは、なぜでしょう。出し方の部分から共通していることを探してください。 C…みんなかけざんをしている。 C…同じ数をかけている。 T…3つのキーワードは言葉は違いますが、同じく片方を2倍、3倍すれば、もう片方も2倍、3倍になる関係ですね。	○例として、かけ算が分かりやすく書いてあるのを選ぶ。 ○出し方の部分をテレビに大きく映して見えやすくする。
答え合わせをする。	T…紙の枚数の正解は、500枚でした。実際に測ると誤差が出るのは仕方がないのでみな正解とします。	

(4) 評価

- キーワードを使って出し方の説明を書くことができたか。
- 「単位量当たりの大きさ」「比例」「比」がそれぞれ同じ2量の間係を表していることをまとめることができたか。

データ…1cm108枚, 全体○cm

私は

の考え方を使って

出し方

になり

枚

になります。